

特定非営利活動法人 不惑倶楽部 設立趣旨書

2000/6/22

我が国が 21世紀に向かい、豊かで活力ある社会を築いていくためには、一人ひとりが、生涯のいつでも、様々な活動を行う機会を自由に選択して、充実した人生を送ることができるようにすることが重要です。特に、生涯スポーツ社会、すなわち国民のだれもが、生涯にわたって、それぞれの体力や年齢に応じて、豊かなスポーツライフを楽しむことのできる社会の建設は、国民全体に課せられた重要な課題だと思えます。また、少子・高齢化社会の到来が不可避である今日においては、中高年齢者が、心身共に健康で、かつ、スポーツを楽しみながら実りある日々を過ごすことは、社会に活力をもたらし、人々に希望を与える道となります。このような状況の中で、中高年齢者に対し、生涯にわたってラグビーを楽しむ機会を提供することは、生涯スポーツの理念の実践と啓蒙の一環として、極めて有意義なものとなるに至っています。

不惑倶楽部は、戦後間もない1948年に、世界最初の中高年ラグーマンのクラブチームとして発足しました。以来、50有余年にわたり、中高年齢者によるラグビー大会の開催と多数のラグビー試合を継続して実施するとともに、その経験を通じて中高年齢者がより安全かつ快適にラグビーを楽しむためのルール化を行うなど、ラグビーを通じての生涯スポーツの実践と啓蒙に努めた結果、今や国内の至る所に「惑」ラグビークラブが誕生する状況となり、ラグビーは日本の生涯スポーツの先駆けとなりました。のみならず、世界的にもその輪が広がり、1979年からはゴールデン・オールディーズ・ラグビーフェスティバルとして、国際的なシニアラグーマンの集いが実現しています。

この間、不惑倶楽部は、シニアラグビー界の雄として、中高年のラグビー愛好者に広く門戸を開いてきましたが、現在では、各国と地方の仲間を加え、300人を超えるメンバーを有するに至っており、国外遠征や来日外国チームとの対戦を含め、年間70試合以上のゲームを行う名門倶楽部として、内外にその名を馳せています。そして、年代別のパンツの色分けなど、不惑倶楽部のルールのいくつかは、現在、世界のシニアラグビーの共通ルールとなっています。同時に、中高年齢者の健康の問題にも取り組んでおり、病院における介護ボランティア活動を毎月実施して、スポーツの振興と保健の増進の形で社会に貢献しています。少子・高齢化の傾向が強まり、生涯スポーツに対する需要が高まる今日において、不惑倶楽部の活動は、ますます意義深いものとなっています。ここにおいて、我々は、社会的に認知された団体として、従来以上に大きな公益を実現すべく、特定非営利活動法人の道を歩むこととしました。

不惑倶楽部は、中高年齢者に対して、生涯にわたってラグビーを楽しむ機会を提供し、ラグビーを通じての生涯スポーツの実践と啓蒙を行うとともに、介護その他のボランティア活動を行うことにより、スポーツの振興と保健の増進に寄与することを目的として、中高年齢者によるラグビー試合の大会の企画、運営及び開催に関する事業、中高年齢者によるラグビーの普及及び啓蒙に関する事業、中高年齢者によるラグビーに関する資料及び情報の収集及び整理に関する事業、中高年齢者によるラグビーを通じての国際交流に関する事業、介護を必要とする中高年齢者の介護に関する事業等の事業を行うこととし、ここに特定非営利活動法人として設立いたします。